

平成22年3月16日

第2回 調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会

資料7

# 総合評価落札方式における技術提案の 履行確実性評価について

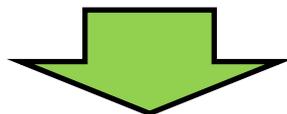
---

## 基本的考え方

低入札業務では、業務成績が高得点の割合が低いことから技術提案した内容について、その履行の確実性を評価する方法を検討する。

## 対象業務

平成20年度に総合評価落札方式で調達した土木、測量、地質調査の3業種233業務※のうち低入札で落札した69業務(応札者数574)



履行確実性の評価方法についていくつかのパターンを想定してシミュレーションを実施し、低入札発生率の変化について分析

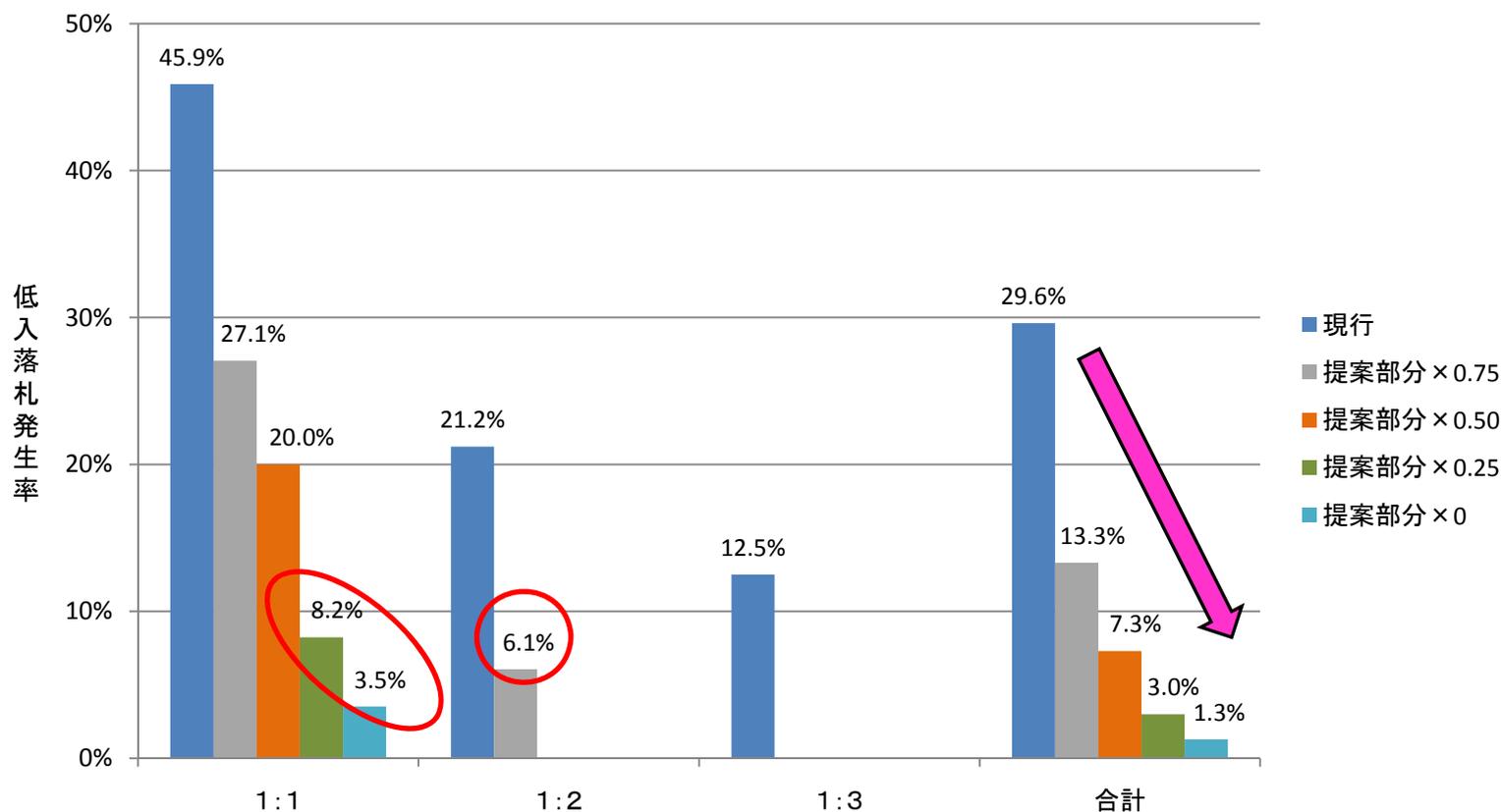
※予定価格超過、辞退者を除いて2者以上の応札があった業務から全応札者が低入札だった業務を除く

	パターン1 (技術提案部分の得点を減点)	パターン2 (技術評価点全体を減点)																									
技術提案の履行の確実性の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術提案の履行の確実性の評価結果に応じて、<b>技術評価点のうち技術提案部分(実施方針と評価テーマの得点)</b>を減点する</li> <li>■ <b>履行確実性を踏まえた技術評価点 = (現行の実施方針 + 評価テーマの得点) × (減点率)</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術提案の履行の確実性の評価結果に応じて、<b>技術評価点全体</b>を減点する</li> <li>■ <b>(履行確実性を踏まえた技術評価点) = (現行の技術評価点) × (減点率)</b></li> </ul>																									
具体的イメージ	<p>■ 履行確実性の評価に応じて、実施方針と評価テーマの得点に1.0、0.75、0.5、0.25、0を掛ける</p> <p>【標準型1:2の例】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>21(30)</td> <td>18(18)</td> <td>30(42)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>資格実績等</td> <td>実施方針 + 評価テーマ</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">↓ 減点 ×0.5倍の場合</td> </tr> <tr> <td>21(30)</td> <td>18(18)</td> <td>15(42)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>資格実績等</td> <td>方針 + テーマ</td> </tr> </table> <p>数字は得点(満点)</p>	21(30)	18(18)	30(42)	価格評価点	資格実績等	実施方針 + 評価テーマ	↓ 減点 ×0.5倍の場合			21(30)	18(18)	15(42)	価格評価点	資格実績等	方針 + テーマ	<p>■ 履行確実性の評価に応じて、技術評価点に1.0、0.75、0.5、0.25、0を掛ける</p> <p>【標準型1:2の例】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>21(30)</td> <td>42(60)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>技術評価点</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">↓ 減点 ×0.5倍の場合</td> </tr> <tr> <td>21(30)</td> <td>21(60)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>技術評価点</td> </tr> </table> <p>数字は得点(満点)</p>	21(30)	42(60)	価格評価点	技術評価点	↓ 減点 ×0.5倍の場合		21(30)	21(60)	価格評価点	技術評価点
21(30)	18(18)	30(42)																									
価格評価点	資格実績等	実施方針 + 評価テーマ																									
↓ 減点 ×0.5倍の場合																											
21(30)	18(18)	15(42)																									
価格評価点	資格実績等	方針 + テーマ																									
21(30)	42(60)																										
価格評価点	技術評価点																										
↓ 減点 ×0.5倍の場合																											
21(30)	21(60)																										
価格評価点	技術評価点																										

	パターン3 (履行確実性評価点を 技術点の一部として設定)	パターン4 (履行確実性評価結果を技術提案と履行確 実性評価点の両方に反映)																												
技術提案の履 行の確実性の 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現行の技術点(60点満点)の配点の中に新たに履行確実性評価点を設定し、価格点配点の30%に相当する配点を与える (比率1:1の場合18点、1:2の場合9点、1:3の場合6点)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現行の技術点(60点満点)の配点を圧縮して新たに履行確実性評価点を設定し、価格点配点の30%に相当する配点を与えとともに技術評価点のうち、技術提案部分(実施方針+評価テーマ)と履行確実性評価点を減点する。</li> </ul>																												
具体的 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 履行確実性の評価に応じて得点は、配点の1.0、0.75、0.5、0.25、0倍を掛ける</li> </ul> <p>【標準型1:2の例】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>21(30)</td> <td>24(51)</td> <td>9(9)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>技術評価点</td> <td>履行確実性</td> </tr> <tr> <td>21(30)</td> <td>24(51)</td> <td>4.5(9)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>技術評価点</td> <td>履行確実性</td> </tr> </table> <p>数字は得点(満点)</p>	21(30)	24(51)	9(9)	価格評価点	技術評価点	履行確実性	21(30)	24(51)	4.5(9)	価格評価点	技術評価点	履行確実性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術提案部分(実施方針+評価テーマ)に履行確実性の評価に応じて、配点の1.0、0.75、0.5、0.25、0倍を掛けるとともに履行確実性の配点に同率を掛ける。</li> </ul> <p>【標準型1:2の例】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>21(30)</td> <td>15(15)</td> <td>24(36)</td> <td>9(9)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>資格等</td> <td>方針+テーマ</td> <td>履行確実性</td> </tr> <tr> <td>21(30)</td> <td>15(15)</td> <td>12(36)</td> <td>4.5(9)</td> </tr> <tr> <td>価格評価点</td> <td>資格等</td> <td>方針+テーマ</td> <td>履行確実性</td> </tr> </table> <p>数字は得点(満点)</p>	21(30)	15(15)	24(36)	9(9)	価格評価点	資格等	方針+テーマ	履行確実性	21(30)	15(15)	12(36)	4.5(9)	価格評価点	資格等	方針+テーマ	履行確実性
21(30)	24(51)	9(9)																												
価格評価点	技術評価点	履行確実性																												
21(30)	24(51)	4.5(9)																												
価格評価点	技術評価点	履行確実性																												
21(30)	15(15)	24(36)	9(9)																											
価格評価点	資格等	方針+テーマ	履行確実性																											
21(30)	15(15)	12(36)	4.5(9)																											
価格評価点	資格等	方針+テーマ	履行確実性																											

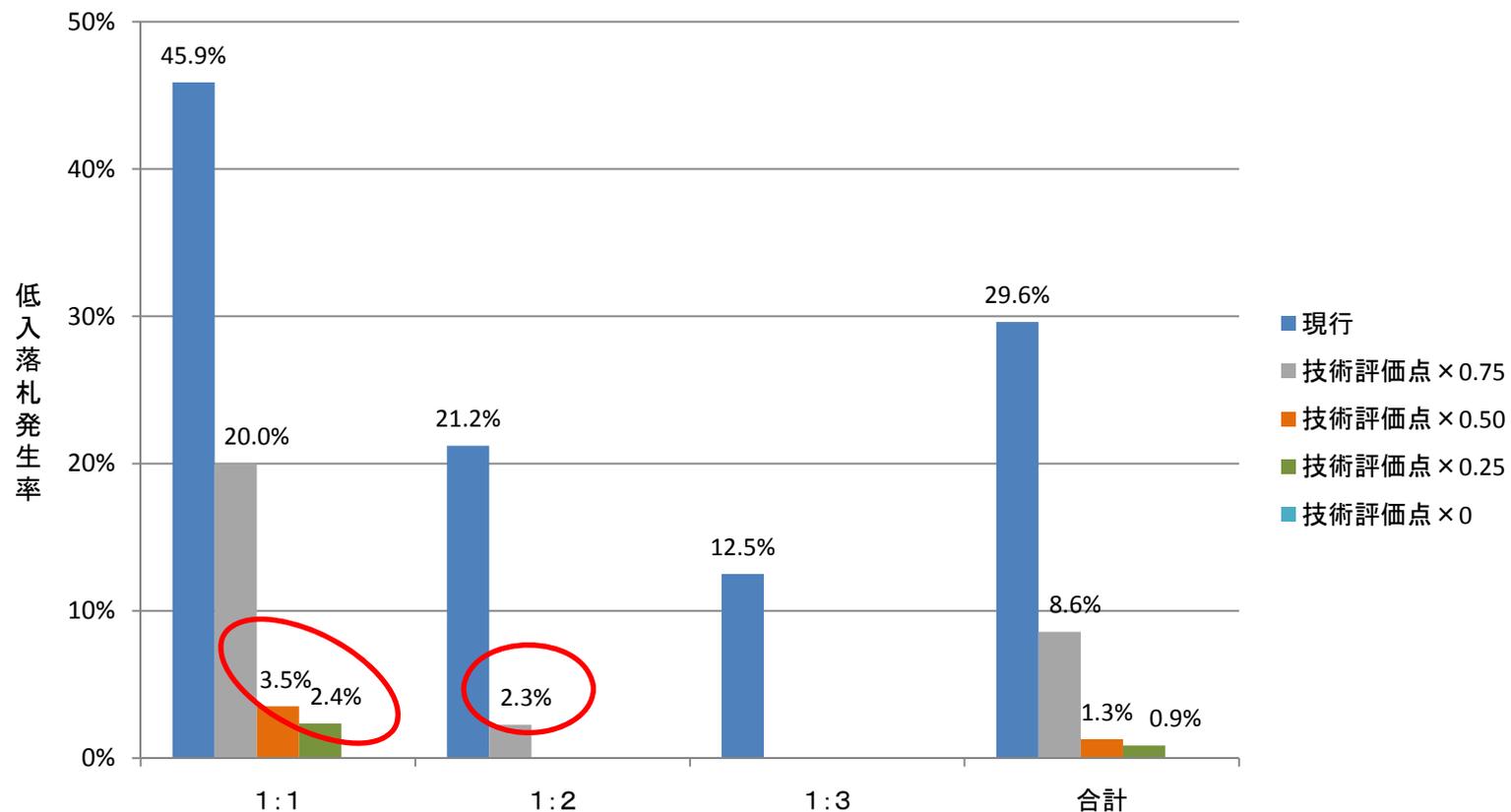
- ・減点率を×0.75～×0まで変化させることで、提案内容の履行確実性に疑いがある応札者(低入札による落札者)は減点率に応じて減少する。
- ・**1:1の業務では減点率により、低入落札が漸減し、×0.5以上では抑制効果は少ないものの、×0.25以下では8.2%以下になる。**
- ・**1:2の業務では×0.75でも6.1%、1:3の業務では減点率によらず全て0%に減少する。**

技術提案部分の満点 1:1→30点 1:2→40.2点 1:3→45点  
 パターン1 配点比率別シミュレーション結果



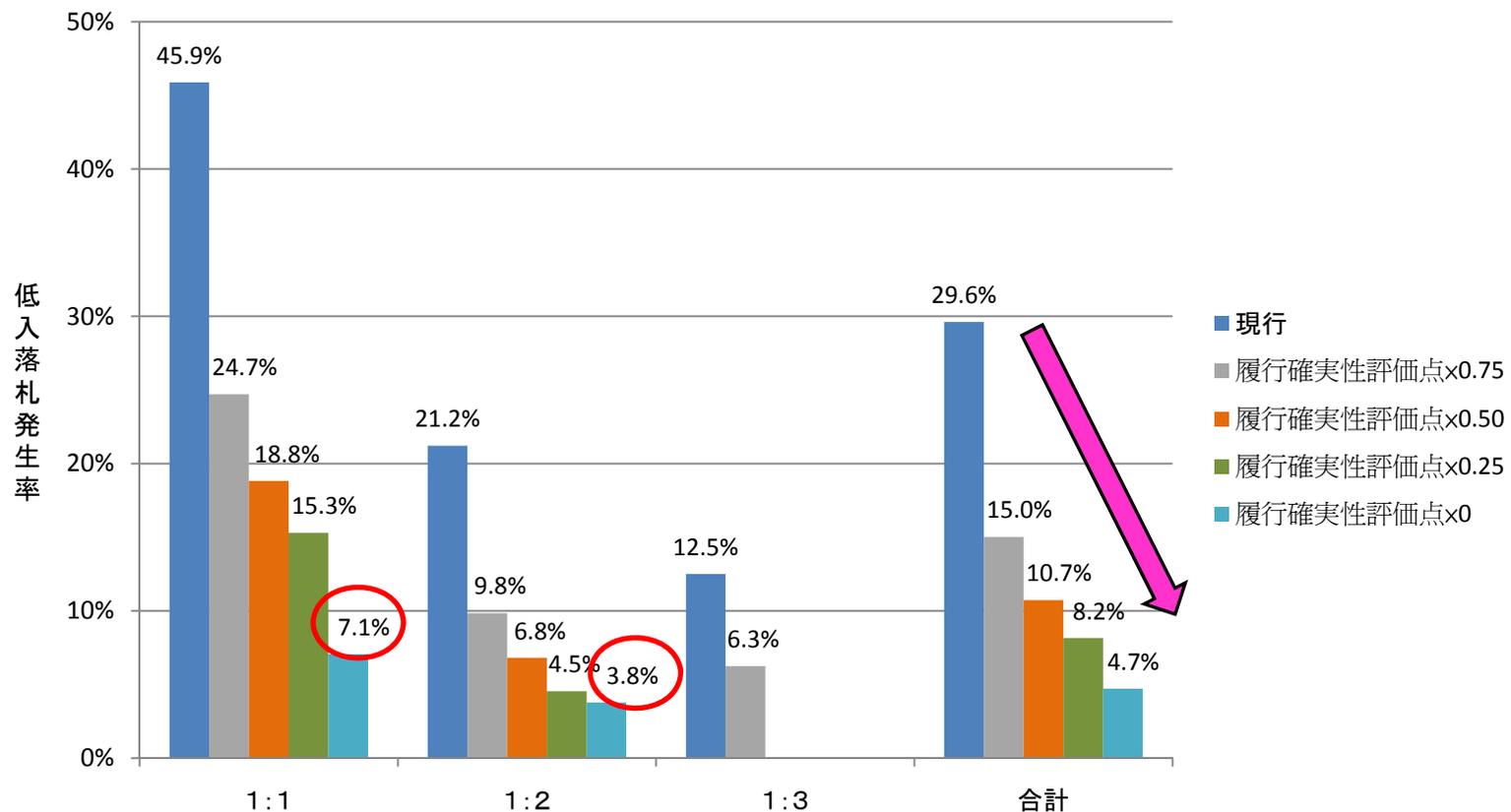
- ・減点率を×0.75～×0まで変化させることで、提案内容の履行確実性に疑いがある応札者(低入札による落札者)は最も減少し、**効果は最も大きい。**
- ・**1:1の業務では減点率により、低入落札が漸減し、×0.75では抑制効果は少ないものの、×0.5以下で3.5%以下に激減する。**
- ・**1:2の業務では×0.75で2.3%、1:3の業務では減点率によらず全て0%に減少する。**
- ・技術提案部分だけでなく資格実績部分にも影響を与える評価方法に対して根拠が必要

技術評価点全体(60点)×減点率  
パターン2 配点比率別シミュレーション結果



- ・履行確実性評価点の得点率によって、履行確実性に疑いがある応札者は漸減し一定程度の効果はあるが、パターン1と比べると**効果は限定的**。
- ・1:1の業務では履行確実性評価点が×0.25以上では抑制効果は少ないものの、×0で**7.1%に減少する**。
- ・1:2の業務では×0で**3.8%に**、1:3の業務では×0.5以下で0%に減少する。

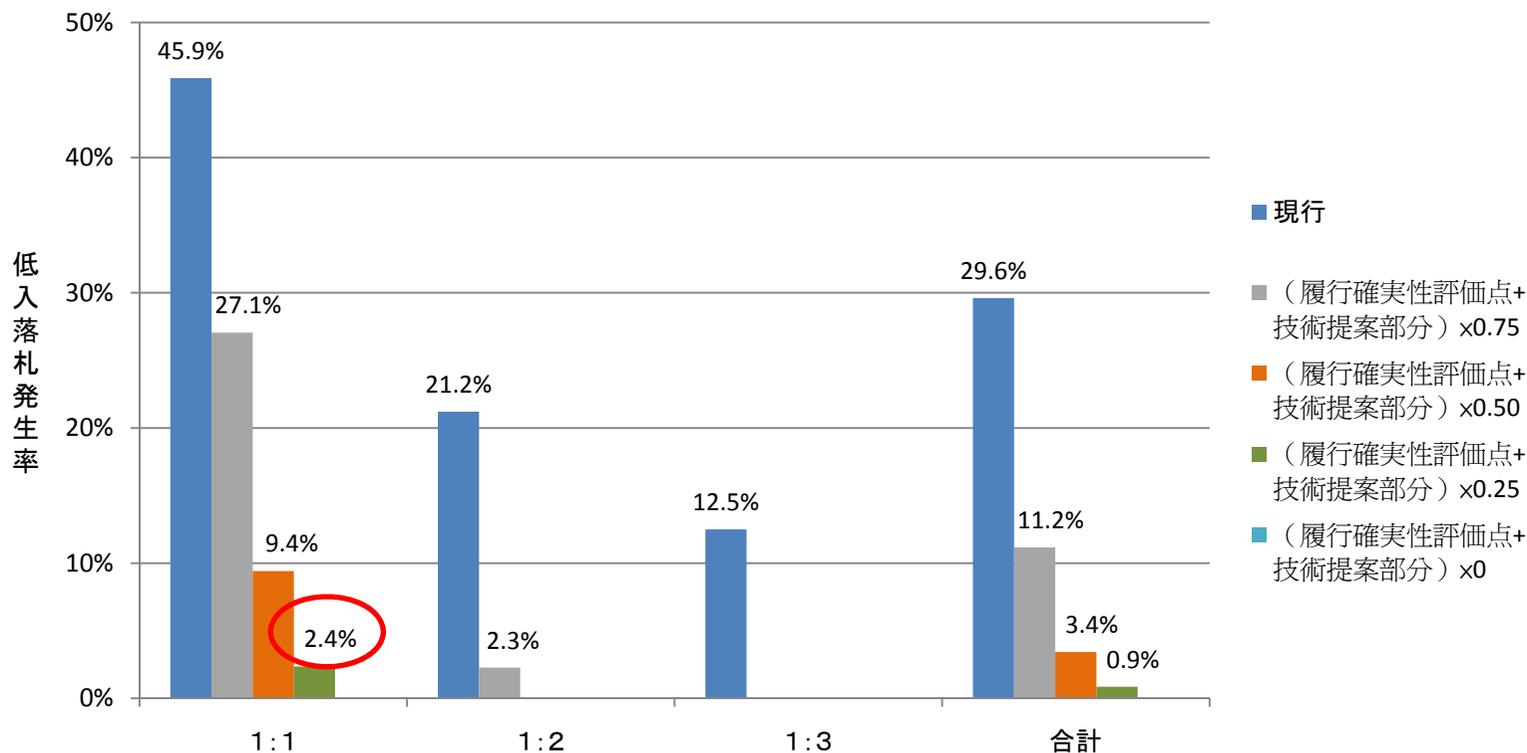
履行確実性評価点の満点 1:1→18点 1:2→9点 1:3→6点  
 パターン3 配点比率別シミュレーション結果



- ・1:1の業務ではパターン1、3と比較すると効果は大きいですが、パターン2よりは効果が小さい。
- ・1:1の業務では減点率×0.75では効果が少ないものの、×0.25で2.4%となり、パターン2と同等の効果がある。
- ・1:2、1:3の業務に対しては、最も効果が大きいパターン2と同様の結果となる。
- ・全体的にはパターン2に次いで、低入落札の抑制効果が大きい。

履行確実性評価点+技術提案部分の満点    1:1→39点    1:2→43.17点    1:3→46.5点

パターン4 配点比率別シミュレーション結果



	パターン1 (技術提案部分の得点を減点)	パターン2 (技術評価点全体を減点)	パターン3 (履行確実性評価点を技術点の一部として設定)	パターン4 (履行確実性評価結果を提案部分と履行確実性評価点の両方に反映)
長所	<p>○低入札の抑制効果は3番目に大きい。 (現行:29.6%) →減点率0.75の場合:13.3% →減点率0.50の場合:7.3% →減点率0.25の場合:3.0% →減点率0の場合:1.3%)</p>	<p>◎低入札の抑制効果は最大 (現行:29.6%) →減点率0.75の場合:8.6% →減点率0.50の場合:1.3% →減点率0.25の場合:0.9% →減点率0の場合:0%)</p>	<p>▲低入札の抑制効果は一定程度期待できる。 (現行:29.6%) →減点率0.75の場合:15.0% →減点率0.50の場合:10.7% →減点率0.25の場合:8.2% →減点率0の場合:4.7%) ▲技術評価点が小さい者間の競争にも効果がある。</p>	<p>○低入札の抑制効果は2番目に大きい。 (現行:29.6%) →減点率0.75の場合:11.2% →減点率0.50の場合:3.4% →減点率0.25の場合:0.9% →減点率0の場合:0.0%) ▲技術評価点が小さい者間の競争にも効果がある。 ▲工事の施工体制審査の評価に近い方法である。</p>
短所	<p>▲減点効果は実施方針と評価テーマの得点により変動し、得点が少ない応札者には効果が少ない</p>	<p>▲技術点には予定管理技術者の評価(成績、実績等の客観的な評価)が含まれているため、減点対象とするためには理由が必要 ▲減点効果は元の技術評価点により変動し、技術評価点が少ない応札者には効果が少ない</p>	<p>▲比率に応じて技術点の配点を使い分ける必要があり、運用方法が複雑になる ▲1:1の業務では履行確実性評価点が18点と大きいため、非低入札者間では技術評価点の点差が付きにくくなる ▲1:1の業務では減点率0.25以上の場合、効果は限定的となる ▲現状よりもさらに低い価格での応札行動に対する抑止効果が小さい</p>	<p>▲履行確実性評価点を含む技術評価の配点によって減点率を乗ずる対象点が変わるため、運用方法が複雑になる ▲1:1の業務では履行確実性評価点が18点と大きいため、非低入札者間では技術評価点の点差が付きにくくなる</p>

# シミュレーション結果

